

### 夏

短い夏がやってきた  
今年はどうな思い出ができるかな？

### LIFESTYLE

#### なつナツ夏

大内萌生さんによる今も思い出す  
夏の青春のおはなし P2



### REPORT

高橋雄喜からの挑戦

## 詰将棋

雄喜くんが  
詰将棋の問題を出題！ P3



### BOOK

## あなたからは 何が見える？

自分が見えているこの世界は、本当にほかの人にも同じように見えているのだろうか？とこどもの頃よく疑問に思っていました。鏡に映る自分の姿さえ、ほかの人から見た自分とは違うのでしょうか。本当の意味でわかることはないけれど、想像することはできます。片山健さんの、絵本を飛び出して迫ってく

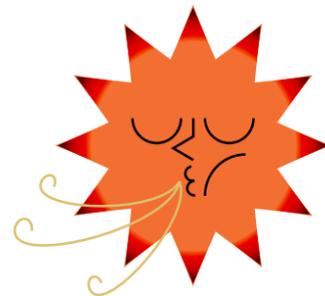
るような油彩画と、夏ならではの濃い緑が印象的なこの絵本。ある夏の昼過ぎの池で、一人の少年が釣りをしています。池の周りには、いろんな生き物の視点から世界が描かれます。魚から見ると、とんびから見ると、ミツバチから見ると……そんな具合に、視点がどんどん移っていき、絵本を見ている私自身がその中に吸い込まれるような感覚になります。数年前、片山健さんの油彩画展に行きました。片山さんが描いている絵は、私のこどもの頃とは時代も場所も違うはずなのに、無性に懐かしさを感じたことを覚えています。普遍的で、キャンパスからはみ出てその先を想像させるような、そんな絵なんですよ。



ぼくからみると  
高木仁三郎 ぶん / 片山健 え  
のら書店 / ¥1,650



### LETTER



## 太陽のせい

北海道生まれの僕は、関東で10年くらい過ごしましたが、やっぱり北海道が好き。冬はとても寒く美しく、夏はそこまで暑くなく涼やかで過ごしやすい。そう思っていたら、最近は蝦夷梅雨に猛暑と気候変動を肌で感じるほどになっている。それでも、本州の梅雨や終わりの見えない夏に比べると過ごしやすいのには変わりがないのだが、暑さってのは逃げられないから嫌いだ。寒ければ厚着をしたりストーブをつけたりすればいい。しかし暑い時には、服を脱ぐにも限度があるし、逃げ場がない。

そこで登場するのがクーラーなのですが、僕はどうも苦手。一体どうやって、クーラーはあんなに冷たい空気を出せるんだ?! しかも冷たい空気を出しながら、その裏側では熱風を吐き出しているわけで、大都会ではむしろ街を温めるストーブ状態。もっと別な方法で暑さに立ち向かう方法はないものか。ただ、カミュのこの本の主人公ムルソーのように、まともな論理的思考なんてものがはたして存在するのか、これもまた難題なのである。どちらにしても、夏はほどほどの暑さがよいのです。



異邦人  
カミュ / 窪田啓作 訳  
新潮社 / ¥649

### BOOK

## 誰かの常識が 自分の常識とは 限らない

ウエズレーが住む街では、こどもはピザとコーラが大好きで、サッカーをして、男の子はみんな頭の両側を剃り上げています。でもウエズレーは違います。両親には「はみ

だして」かわいそうと思われませんが、彼は全く意に介しません。ある時飛んできた不思議な種から自分の国をつくり、文明まで作りあげてしまうウエズレー。同じって悪いことではないです。だけど、いったん立ち止まって「本当に自分にとって心地よいこと？」って考えられたらいいですよ。



ウエズレーの国  
ポール・フラッシュマン 作  
ケビン・ホクス 絵 / 千葉茂樹 訳  
あすなろ書房 / ¥1,760



### BOOK

## あれもこれも すべて暑さの せいです

暑さに弱いすべての方にオススメしたい一冊。この絵本を知ってから、夏にした失敗はすべて「暑さのせい」と思っています(笑)。表紙からわかるスズキコージさん節。強烈な色づかい

に個性豊かな登場人物たち、そして斜め上に行く物語。独特な世界観なのですが、なんだか彼らが実際にいるような気がしてきます。とっても暑い日、馬のはいどうさんが帽子を忘れたことから始まる物語。関係のない登場人物たちが、帽子をきっかけに連鎖していく様子はとても愉快。オチもいいんですよ。



?あつさのせい?  
スズキコージ  
福音館書店 / ¥1,320



## LIFESTYLE

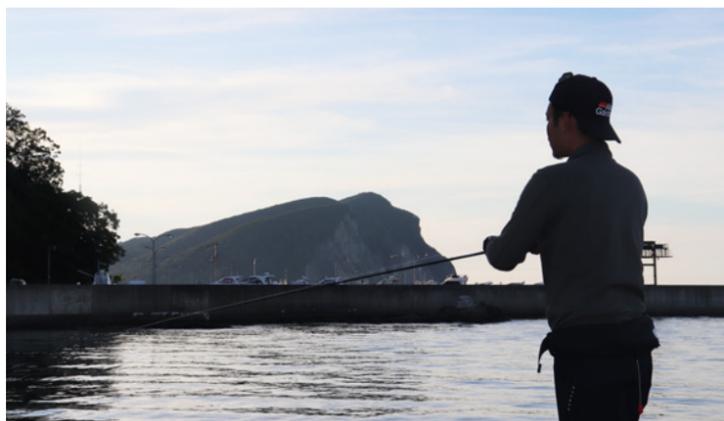
夏枯れを  
乗り越える

文・写真 中川知嵩

ジリジリと日差しが強くなる日が多くなってきました。去年、北海道が日本で一番暑い日なんて日もありました。さて、北星余市高校への入学が縁となり、そのまま余市に住みついでしまった私の趣味は、「釣り」です。仕事と睡眠以外の時間は、ずっと竿を握り締めていると言っても過言ではないくらいに釣りばかりしています。

そんな釣り人に厳しいのが「夏」です。実は水の中にもちゃんと「四季」が存在し、夏になると暑さのためにご飯を食べる気力すらなくなってしまう私同様、水の中にいる魚も水温が上がることで同じことが起こるのです。人間で言う「夏バテ」を私たち釣り人は「夏枯れ」と言います。海水温が適水温より高くなることにより、餌を積極的に追わなくなるのです。生き残っている大きな魚ほど、狩りは無駄がなく、いつだってスマートで合理的なものです。コンディションが悪い時に無理はしないのです。

しかし、この夏枯れを打破する方法が存在します。動物には反射的にしてしまう行動というのがあります。目の前を飛び回る虫を手で払うことや、物を落とした瞬間、パッと手を伸ばし拾おうとする行為がそれに当たります。ある条件に対して無意識に行う行動を反射と言いますが、過去の体験や経験から身についたものと私は考えています。つまり脳で考えるより先に、体が覚えているのです。実はこれは同じ動物として魚にも同じことが起こるのです。これをリアクションバイトと言います。このリアクションバイトを活用して夏枯れを攻略していくのです。具体的にどうするのか？リアクションバイトを誘発させる為には、考える時間を与えてはいけません。早く巻く、早く落とす、唐突に動き出す等々。魚がそれに気づいた時、有無も言わず食いつかせるそんなイメージをしながら誘うのが重要です。釣り場や、時期でも変わってしまう釣り方です。夏枯れで全く何の反応もなく、何も無い厳しいことも多い時期ですが、掛かった時はデカくてパワフル！頭を使い、粘りに粘って釣り上げる一匹は一生忘れられない思い出になり、ますます釣りの魅力に引き込まれていきます。北海道の海の魅力には底がありません。これからも楽しんでいきたいと思えます。



中川知嵩 | Tomotaka Nakagawa

夏だからこそその頭脳戦がやめられない余市の農家&amp;釣り人

## REPORT

## 北海道の鉄道

弁論大会 自由の部 / 優秀賞

2年B組 阿久根春樹

俺は！！鉄道オタクだ！！詳しく言えば、音鉄と乗り鉄だ！！音鉄とは、電車のモーターの音や駅の発車メロディの音をこよなく愛するオタクである！！乗り鉄の本心を言えば、起きる時も寝る時も電車の中に居たい！！鉄道は個性的でかっこいい！！だから北海道の鉄道について語ろうと思う！！北海道には鉄道が絶対に必要だ！！

鉄道は、大量輸送に凄い威力を発揮する乗り物だ。だが、地方の利用者が少ない区間は、鉄道の特色を活かせない為、鉄道は弱い。

例えば、この付近を走る小樽長万部間の事例で話を進めたいと思う。みんなも知っている北海道新幹線が札幌まで伸びる際に国の取り決めて新幹線に並行している在来線は、乗客が新幹線に流失する影響でJRなどの新幹線の運行する会社から切り離す決まりだ。そして最寄りの自治体が在来線を残すかなくすか話し合い決める。今回の話し合いでは、バス転換する事が決定した。だが問題は、沢山ある。まずバスの運転手不足の問題だ。更に問題なのは、バス会社の合意も得られていないことだ。

また、この区間には、小樽余市間などの鉄道の威力が発揮される輸送力が専門用語を使うと輸送密度が2千人を超えている区間も含まれている。もし、余市から鉄道がなくなるとバスが輸送力不足になる事は、間違いない。もし、将来更にバスドライバーが不足した際の地域の公共交通機関の崩壊を招きかねない。

そうなる最終的には、小樽長万部区間通称「山線」を存続する方法しか選択肢は、無いと思う。更に、同区間には有珠山が噴火した際の貨物列車の迂回路線としての側面も兼ね備えている。又千歳線では、新千歳空港のインバウンド需要などにより、線路容量に課題がある。線路容量とは、鉄道の線路を1時間当たり走行可能な列車本数を示した値である。この区間には、1時間あたり快速エアポートが6本、普通列車が2本、特急が2本運行されている。そこに貨物列車が1本運行している為、6分に1本のペースで電車が運行している事になる。だからこそ、千歳線の線路に余裕を持たせる為、迂回貨物だけでなく、定期貨物列車としても山線は、有効活用できそうだ。更に、今度北海道に導入される新型機関車は、貨物列車の迂回運転に対応する為に機関車

の車体重量を減らす計画で、山線区間への入線を可能としている。また、大雨の影響で北海道の旭川と網走を結ぶ石北本線が運休になった際、貨物列車が1往復運休しただけで、新たに20台のトラックが必要となった。この事例は、鉄道が1列車1人の運転士なのに対して、トラックでは約20人のドライバーが必要だという事だ。最近トラックドライバーが不足している中でもし有珠山が噴火し、線路が不通になった場合の荷物を全てトラックで輸送出来るのだろうか？

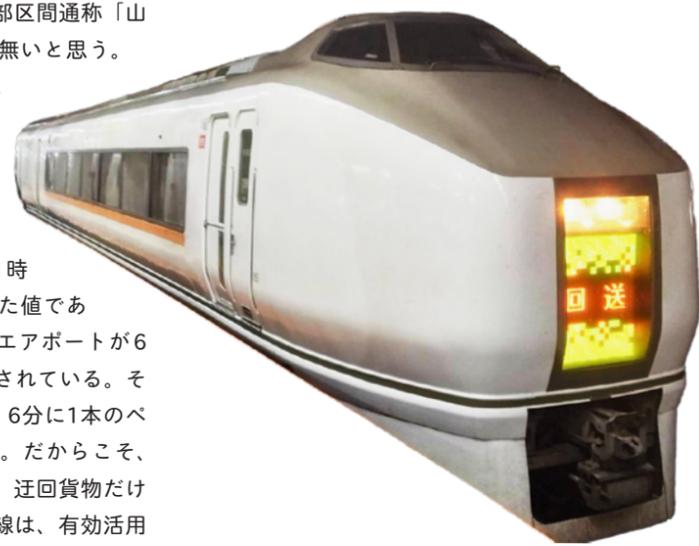
更に北海道の廃線を加速させている北海道庁は、道路整備に、多額の予算を投じているが、鉄道整備に掛ける予算はほぼ0である。道路に予算を、あてるのなら鉄道にも予算を割り、線路強化や自然災害への対策、貨物列車の迂回運転が出来そうな山線区間に予算を割いた方が効率が良い。更に道路では、運転免許や自家用車を保有していない人が使用する事が出来ないが、鉄道の場合は、地域の足となり、貨物輸送の役割も果たすことが可能だ。

又最近では、ネットショッピングの普及により更にドライバー不足に拍車が掛かっている。

だから少しでも負担を減らす為にモーダルシフトを行う事が重要である。モーダルシフトとは、トラックなどで行われている、貨物輸送を環境負荷の小さい鉄道や船への利用へと転換することをといい、「モーダルシフト」を行う事でCO2排出量を低減し、未来へのエコな輸送方法として鉄道を活用すべきである。そして、国が鉄道の輸送効率、物流の重要度をきちんと理解し、函館本線のような鉄道路線を支援していく事が必要不可欠だ。

これからも地域の足として、物流の血管として、環境に優しい輸送を実現する為に、鉄道は、北海道に必要不可欠だと思う。

ちなみに俺は！！理屈ぬきに、鉄道は無くなって欲しくないー！ずっと鉄道で旅をしたい！！



2023年に定期運行が終了した651系 阿久根春輝 撮影

## LIFESTYLE

## なつナツ夏

文 大内萌生  
イラスト 小高梨乃

もうあの頃みたいな夏には出会えないだろう。暑くて制服のスカートをバサバサする。毎日会ってるのに話が途切れることはない。エアコンが無いことを言い訳に授業は聞いていなかった。昼休みは急いでお弁当を食べて、体育館でバレーボール。授業が終われば急いで部活に駆けていく。少しだけ日焼けが気になるけど、汗は平気で流す。毎日変わる夕焼け空。すごく好きだった。帰り道は自転車に夜風に吹かれる。車の音で消されていると信じて、大声で歌った。たまに君と帰って、「また明日」を交わす。似たような毎日だったかもしれない。でも毎日が思い出だった。少しダサい制服も、将来に悩んで泣いた日も、目標に向かって燃えたときも。終わってからは思いついては思い出に浸る。もうこんな夏は帰ってこない。だからこの夏は海につれてって。久しぶりにキャンプに行こう。フェスは日焼けするから遠慮しようかな。浴衣をきて、わたがしを一口。お花いっぱいの中で、思いつき自然を浴びよう。夜はお散歩しよう、いつもより早く溶けてくアイスを手手に。一日くらいは、近所のおじさんたちとラジオ体操でもしようかな。行ったことないところに、君がいるから。会いに行くね。どんなときもおいしいグルメが必須です。どうぞよろしく。一番忘れちゃいけない持ち物は君だね。夏だからさ前髪もぐちゃぐちゃだし、汗に悩まされるし、まぶしくてサングラスとかかけちゃうけどとびっきりの笑顔で会いに行くから。ゆるして。まるでひまわりのように向き合いたい君だけに。まるで花火のような儂い瞬間を君と過ごしたい。なつ。ナツ。夏。今年の夏は何が起きて全部夏のせいしよう。



大内萌生 | Mei Ouchi

2005年生まれ。北海道札幌市出身。東京学芸大学 教育支援課程 表現教育コース在籍。学びと遊びの両立。

# 夏の本と音楽と映画



## この世界の片隅に

片淵須直 監督/ここの史代 原作

「はだしのゲン」や「ガラスのうさぎ」を小学校の頃に見て以来、戦争が怖いと感じ続けています。この映画を観た時、徐々に日常が崩れる怖さも感じました。この淡々さ、すごい演出です。続編（別 ver?）もお勧めです。（今堀浩）



## 54文字の物語

氏田雄介

題名の通りほんとに54文字びったりで書かれていて、面白いです！私が中学生の時に図書室でその本を見つけて読んでみたら他の本とは違う面白さがあり、本が苦手な私でも読める内容でした！なので、皆さんぜひ読んでみてください！（3A 山口葵）



## サマーウォーズ

細田守

毎年夏になると必ず見たくなる作品です！謎の人工知能の暴走によって生じた世界の危機に立ち向かう、小磯健二と仲間たちの物語です！！夏といえばの作品でぜひオススメです！（宍戸大輝）



## 強歩遠足

北星余市の行事

僕は夏といえば強歩を思い浮かべます。何故かと言うと結構大変だったからです。峠があるのですが上りも下りもどっちも体力を奪われるからです。ですが、友達と歩いたりできるので辛い事ばかりでは無かったです。（2B 山田岳）



## 五等分の花嫁

春場ねぎ

夏といえば海。男女がイチャイチャするのを現実世界で見るとたまらなく嫉妬する。だけど「ごとはな」は涎が出るくらいの大好き。人は何か欠けてるもの。でもそんな欠けてるところを五つ子みたいに支え合い、分かち合う。心が温かくなる。（1A 田村瞭）



## 夏の思い出

江間章子 作詞/中田喜直 作曲

「夏が来れば 思い出す はらかな尾瀬とおい空」高校1年の研修旅行で尾瀬をハイキングしました。40年以上前のことなので、細かいことは記憶の霧の中に沈んでいます。ですが、クラスメイトと歩いた高層湿原は、確かに心象風景のひとつとなっています。（塚原治）



## HEYA

IVE

この曲は韓国の6人組ガールズグループのIVEの曲で、とにかくクセになるメロディーと美しい歌声に魅了されます。力強いラップもおすすめポイントです。夏に聴きたくなくとも爽やかな曲なので是非聞いてください。（成田健太郎）



## また、同じ夢を見ていた。

住野よる

昔入院中に読んだ本で、穏やかに綴られる現実の醜さと別れの寂しさを感じます。成長するにつれて知る現実が当時12歳の私には生々しく、衝撃的なものでした。10代で感じる「環境の大切さ」「自分の性格」「現実の厳しさ」にそっと寄り添ってくれる本です。（2A 大島心海）



## 遥か遠き家

八田てき

主人公のアランがヘイデンと知り合った事でアランには無かった自由と言うものに会います。閉塞感のあるアラン、重たい過去を持つヘイデンの目標である夏のメキシコの海を目指しながら、主人公が下した決断とは…？主人公の成長と決断力に感動する作品です！（1B 柿崎帆風）



## 全国高校野球

NHK

夏と言ったら、「甲子園」でしょう！高校球児たちが各県の代表として、夢の場所「甲子園」で闘います。笑い、感動、それでいて数え切れないほどのドラマが生まれる甲子園は僕の夏の楽しみの一つです。（3B 山本舞咲斗）



## ぼくたちと駐在さんの700日戦争

ママチャリ

「やられたらやりかえす」を徹底して行うぼくらはなし。そこに対抗してくる駐在さんも本気でぶつかってくるそのかけひきが見どころ。みたら笑っぱなし。田舎町でみんなで自転車漕ぐシーンが1番夏を感じる。映画もアリ。（菅野瑞希）



高橋雄喜からの挑戦

# 詰将棋

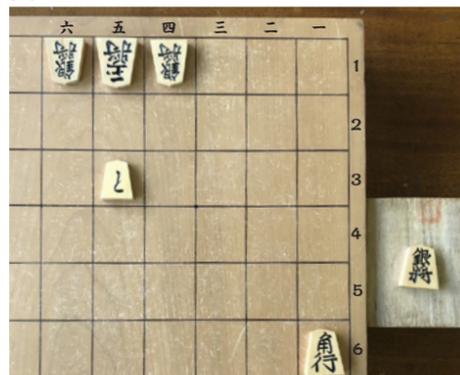


3年A組 高橋雄喜  
将棋は僕が一番没頭したボードゲームです。僕が最初に苦戦した詰将棋ですが、皆さん解けますか？

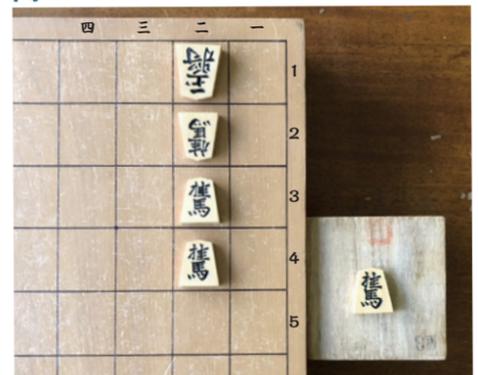
## 解く手順を考えてみよう

〈ルール〉 ・必ず「王手」の連続で詰まなければなりません。（詰むとは…王様を次に必ず取れる状態のことです。）  
・横にある駒が自分の持ち駒です。

問一



問二







LIFESTYLE

# 学生時代は 人生の夏

文 小野村哲

大学時代、夏のほとんども富士五湖のひとつ、西湖畔のキャンプ場で過ごしていました。管理人、そしてレクリエーション・リーダーとしてそれなりに忙しい日々を過ごしましたが、振り返れば私の人生の中でもっとも豊かな時間だったかもしれません。

日の出とともに目覚め、さっさと仕事を済ませたら、富士山を眺めながらゆっくり昼食を取ります。午後は子どもたちと植物観察や魚のつかみ取りなどを楽しみ、夜にはキャンプファイヤー。お化け大会では今でも不思議に思う「怪奇現象?」もありました。

困っているお客さんの手伝いをして、ファンレターをもらったこともあります。太平洋戦争後、米軍の物資を闇市で売ってもうけたという方からは、当時の生々しい話を聞かされました。毎年、大勢でやってきた漁師さんたちは、みんなの前でマグロやイカをお刺身にして振る舞ってくれました。様々な人との出会いは、その後の私の生き方を変えたように思います。

とはいえ、本当の私は今でも人見知りです。仕事の上で私を知る人は「そんなことはないでしょう!」と笑うかもしれませんが、人が大勢いる所は今でも大の苦手です。

そんな私がキャンプ場で働ききっかけをつくったのは、大学のサークル活動でした。しかしそれも、自分から進んで入ったわけではありません。「美人がたくさんいる!」という友人に付き合わされて入会はしたもののそれきり顔も見せずにいましたが、「人が足りない。とにかく来てくれ」と言われ、断ることもできずに参加したのが始まりでした。

私は今、人生の秋を過ぎ、冬を迎えようとしています。私は私なりの思いをもって生きてきたつもりですが、一方で何かに導かれるままに生きてきた結果が、今の私です。若い方から見れば「大人もいいところ大人」かもしれませんが、「大きな人」になれたかと言われると「はい」とは言えません。けれど、「まあ、人生はそんなものか」とも思うようになっています。



小野村哲 | Satoshi Onomura

NPO法人リヴォルヴ学校教育研究所 理事長・元つくば市教育委員会教育委員  
公立中学校に英語教諭として勤務。39歳で退職し、むすびつくばライズ学園を立ち上げ、不登校や学習につまずきがちな子どもたちの支援にあたる。主著に『よめるかける ABC英語れんしゅうちょう』(リヴォルヴ) 2006、『イラストと音で覚える 読み書きが苦手な子のためのアルファベットワーク』(明治図書) 2020他。

LIFESTYLE



# レストラン燻香廊

文・写真 南保沙都子

レストラン燻香廊(けむかろう)は、「燻製は料理にするとさらに美味しくなることを知ってもらいたい」という、燻製屋・南保留太郎商店2代目南保敬二(現・会長)の想いから生まれたレストランです。過去に札幌で飲食店を経営していた経験を活かし、お店のデザインや料理など全て南保敬二自身がプロデュースするという形で今に至ります。店舗は燻製屋・南保留太郎商店に隣接した古民家を改築し、店内は古き良き時代を思い出させてくれるインテリアとなっています。落ち着いた雰囲気で、お客様にゆったりとした時間を感じていただけるような空間づくりを心掛けています。お陰様で開店から13年を迎えることができました。開店当初から数年はカフェスタイルで、燻製コーヒーを味わっていただくことをメ



インとし、燻製を使用したバゲットサンドなどの軽食を提供していました。試行錯誤の末、現在は燻製のお肉を使用した創作料理が中心となっており、シェフは南保敬二・次男の南保雄大がレシピを引き継ぎ、担当しています。料理の種類は数種類ありますが、中でも【スモークビーフの赤ワイン煮込み】は根強い人気となっています。手間暇かけてじっくりと煮込んだスモークビーフはとて柔らかく、濃厚で奥深い味わいです。また、燻製屋・南保留太郎商店で人気の高い【燻し奴】(豆腐の燻製)をサラダにアレンジした料理や、野菜の燻製を使用したスイーツなども好評です。地元のお客様はもちろん、遠くから足を運んでご来店されるお客様もいらっしゃいます。ランチタイムのみの営業となっており、混み合うこともございますので、ご来店の際は事前にご予約されることをお勧めします。お食事のあとは隣の燻製屋・南保留太郎商店でお土産のご購入もできますので、是非ご利用ください。皆様のご来店を心よりお待ちしております。



南保沙都子 | Satoko Nampo

燻製屋・南保留太郎商店販売担当、燻製屋の嫁です。燻香廊では開店当初に数カ月だけ勤務した経験があります。これからもよりたくさんの方に当店を知っていただけたらと思います。  
HP <https://nptomedon.com>

## レストラン燻香廊

余市町港町75番地 電話: 0135-48-5100  
営業時間: 11:00~15:00 (ラストオーダー14:30)  
定休日: 毎週水曜  
営業時間は季節により変動することがございます

## MENU

スモークビーフの赤ワイン煮 . . . . . ¥2,200  
スモークポトフ . . . . . ¥1,760  
デザート(日替わり) . . . . . ¥550  
メニューは一部抜粋

COLUMN



カメラマン美穂子

# 表紙写真の 「さお裏」

今までも部活の紹介はしてきましたが、今回は部活の中でも所属部員が20~30人と、人気の高い、ボランティア局の登場です。余市町に住んでいる方は見かけたことがあるかもしれませんが、彼らの主な活動は浜のゴミ拾いや、花壇の手入れなどです。「高校生って、そういう社会貢献に興味あるの?」と思う方もいるかもしれませんが、今回のメンバーのひとりにボランティア局に入った理由を聞いてみたところ、「ゴミ拾いは運拾いだから」との回答が...! 他の生徒にも入部理由を聞いてみると、「先輩に誘われて楽しそうだから」とか「街がきれいになって、結構充実感がある」など、ポジティブな理由で入部している子が多いように思いました。

今回は用意するものや集めたい人数などを事前に聞いてくれたり、初めての撮影に



もとても協力的で、さすがボランティア局!という印象を受けました。当日も、撮影で使う足りない小物をすぐに調達してきてくれるなど自発的に動いてくれたおかげで、進行もスムーズです。立ち位置やポージングを微調整していると、メンバーのひとりが美容室の予約がある!とのことで、名残惜しくもフェードアウト。そこで急遽、横で様子を見守ってくれていた新任の宍戸先生に入ってくださいました。今回の撮影に参加してくれたのはほとんどが1年生だったので、先生も生徒たちも北星余市に来てまだ1ヶ月ほどのフレッシュメンバーでしたが、以前からの友人のようにみんなでわいわい、楽しそうに参加してくれました。

というわけで、オフショットはこちら!撮影が終わってすぐ生徒たちに囲まれる宍戸先生。仲の良さが伝わってきます。北星余市の魅力のひとつは、この先生と生徒との距離感にあると思います。3年間、来る日も来る日もひざをつき合わせ、喜怒哀楽すべてをひっくりめ一緒に生活していく中で築き上げられるこの関係性は「先生と生徒」なんだけれど、「先生と生徒」だけじゃない、言葉で表現するにはもったいないくらい、特別なつながりです。

辻田美穂子 | Mihoko Tsujita

大阪から移住した写真家。道南のせたな町在住。北星余市でのたくさんの出会いを通して人生が変わったひとりです。パンフレットなど学校の広報物の写真を撮っているの、見かけたら「みほこー!」と声をかけてください!



REPORT



写真部、夕張への旅

2年B組 阿久根春樹

僕達、写真部は炭鉱の街「夕張」に行ってきました。部員の一人が行く曜日を間違え、行けなかったりとハプニングもありましたが、無事夕張に到着しました！夕張に着いてまず始めに、石勝線の廃駅(滝ノ上駅)を見に行きました。鉄オタの僕としては、駅名の看板が取り外されていた所に興奮しました。

その後滝ノ上公園に向かい橋からの絶景と森のトンネルを歩きました。余市より空気がおいしくて久々にびっくりしました！みんなで集合写真をパチリ！そして新夕張駅の近くにある「道の駅夕張メロード」に向かいました。みんなで夕張メロンをバクリ！おいしーメロンだと思って買っ

たらアイスだったり、楽しい時間でした。次に向かった所は夕張シューパロダム！！とにかくデカイ！！そしてとにかく高い！！ここからスカイダイビング出来そうだね！！記念にみんなでマスのある所でパチリ

南大夕張駅に行きました！！昔炭鉱で働いていた方を輸送するのに使われていた鉄道とバスを見る事が出来ます！！先頭のラッセル車でパチリ

お昼は、元夕張支線夕張駅前食堂で美味しく頂きました！この後は夕張の街を散策。炭鉱だった街の時代の流れを思い知らされました。運転して下さった小野澤先生、楽しかったです！！



INFORMATION

60周年式典のご案内

『思うは招く』

～夢があればなんでもできる～

植松 努 (植松電機社長)

私たち北星学園余市高等学校は、余市町で60年間、多くの方々に見守られ支えられながら、「人は人の中で育つ」を合言葉に教育活動を続けてまいりました。豊かな個性と無限に広がる可能性を内包した子どもたちは時に迷い、時に躓きながらも地域の皆様の温かい見守りの中でゆくりと育ち、社会に巣立ってまいりました。この度お招きする植松電機社長の植松勉氏は自らの体験をもとに子どもたちの可能性を信じ、挑戦する喜びを、今の子どもたちとその育ちを支える私たち大人に伝えてくれます。これからも共に子どもたちの育ちを支えていく皆様と、豊かな時間を共に過ごすことが出来れば幸いです。席数には限りがございますが、皆様のご参加を心よりお待ちしております。子どもたちの参加も大歓迎です。ぜひお問い合わせください。

60周年式典 10月5日(土)

〈式典スケジュール〉

12:30 開場

13:00 開演(セレモニー)

13:30 講演開始

〈会場〉

北星学園余市高等学校

体育館

北星学園余市高等学校

046-0003  
 北海道余市郡余市町黒川町19丁目2-1  
 Tel. 0135-23-2165 (職員室)  
 Fax. 0135-22-6097 (職員室)

www.hokusei-y-h.ed.jp



日々の学校生活の様子を更新しています  
 ブログ  
 北星余市は、いま!



動画で観る北星余市  
 北星余市  
 YouTubeチャンネル



卒業生がいかに生きているか  
 ウェブマガジン  
 STAR RECORD



QUESTION

おのざわ先生にきいてみよう



Q 忘れられない夏の思い出はありますか？

A きっかけは小学生になったタイミングで近所のおじさんにサッカーチームに勧誘されたこと。気がついたら毎日、放課後になると小学校の校庭で友達とボールを追うサッカー少年になっていた。最初の頃はちゃんとルールも理解しないまま、ひたすらボールを追いかけるそんな毎日だったが、それでも飽きることなくボールを追いつづけた。みんなでボールを追うことが楽しくてたまらなかった。木枯らしが吹く秋も、雪がちらつく冬も、大変だったが、何よりもジリジリと太陽が照りつけ、熱を含んだ砂埃の舞うグラウンドは、まるで自分が鉄板の上に放り出され焼かれるウイナーにでもなったような暑さは、今思い出しても厳しいものだったと脳裏に刻まれている。

と同時に、思い出すことがある。校庭の正面にある昇降口左手にある水飲み場である。円状に配置されたその水飲み場は、間違いなく僕たちサッカー少年たちの「オアシス」であった。屋根もなく焼けるような日差しを避けることもできないオアシス、休憩時間になるたびにそれまでも十分に走っていたらうに、それを忘れたかのように駆けつけ、ひねった蛇口から吹き出す水。出てきた瞬間、目一杯口に含むのだが、その水のなんとまずいことか。焼けるような日差しに熱せられた蛇口で温められた、「ぬるい」を通り越して「熱い」水、中が錆びているのかなんとかく鉄臭い味がする。まるで砂漠で塩気楼に騙される旅人の如く、毎日のように、毎回騙される。

暑い日差しに、埃まみれのグラウンド、トドメのサビの味しかないぬるい水。

それでも、忘れられないくらい、たまたま気持ちのいい瞬間が記憶に刻み込まれている。

その時も、いつも通り強烈な日差しに、埃まみれの俺たち、ただその時は俺たちはいつもと違う方向へ駆け出していた。いつもの小さなオアシスではない、大きなそれは大きな本当のオアシスを俺たち見つけたのだ。

それは、プール！広くて、大きな水たまり！フェンスを乗り越え、全裸になって飛び込んだ本物のオアシス！最高だった！忘れられない最高の瞬間。夢のひとつとき。

その後訪れた説教さえなければ、最高の夏の思い出。

編集後記

なんせ大雑把な性格の私。何とかなるさ〜では、何ともならない編集のお仕事。不安、不安、不安しかないままここまで来ました。寄稿にご協力いただいた皆さん、編集にデザインにお手伝いいただいた皆さん。本当にありがとうございました。次はもう少し成長した姿を。(小野澤慶弘)

新卒で社会人1年目の私は、今年人生初の夏休みのない夏を迎えます。長期の旅行はお盆の割高&激混みシーズンにしか行けないもどかしさ。学生の頃にもっといろんなところに行っておけばよかったな…学生時代にしかできないことを満喫しておけばよかったな…と今更後悔。(瀬尾涼音)

hoshiii



発行日：2024年7月16日(火曜)  
 発行元：北星学園余市高等学校

